

2023 Advantech Industrial IoT World Partner Conference開催レポート

生成AI活用とエッジコンピューティングで共創推進

アドバンテック

アドバンテックは10月26日と27日、台湾（台北）に構える同社・林口キャンパスにて、創業40周年を迎えるアドバンテックの「過去」「現在」の理解を深め「未来」を示すワールドパートナーカンファレンスを開催。北米、欧州、日本、韓国、アジアなど約60の国と地域から、共創パートナー約800人が集まった。その様子をレポートする。

■アドバンテックとカンファレンスについて
アドバンテックは1983年台湾で創業し、世界26カ国に展開する産業用PCのリーディングカンパニー。「インテリジェントプラネットの実現」を企業ビジョンとして掲げ、ビジネスパートナーと協力して、産業分野に特化したAIxIoTプラットフォームサービスを提供している。

産業用PC以外にも、組み込み用の各種モジュール、イーサネットスイッチ、プロトコルゲートウェイ、ディスプレイ、各種I/Oやセンサ等、標準品だけで2000種を超えるハードウェアのラインアップをそろえ、各種カスタマイズにも対応。日本でも福岡県直方市に製造拠点を設け、一部モデルは最短10日納期に対応するなど、サービスも強化している。また、ハードウェアだけではなく、ソフトウェアやIoTプラットフォームも含めて提供し、幅広い業界にソリューションベンダーとして価値提供を行っている。

Advantech Industrial IoT World Partner Conferenceでは、アドバンテックの方針説明の他、業界をリードする先進企業・パートナー企業幹部による最新情報や事例の講演といった聴講形式のイベントを中心に行われた。最新ソリューションの展示、関係者同士の交流をはかるパーティーなども開催され、「製造業」を中心とした産業向けIoT (IIoT) や生成AI、エッジコンピューティングの最新情報が共有され、多くの参加者が熱心かつ積極的に議論を重ねた。

日本からも装置メーカー、インテグレイタ、専門商社など多くのパートナーが参加。グローバルかつ最新の情報に触れ、自社のビジネスにすぐに生かせる情報を持ち帰った。生成AIの急激な進化に伴いビジネス環境は今後加速度的に変化することが明白な状況のなか、本カンファレンスでは、その変化への適応に対して「アドバンテックが、できること」「アドバンテックと、できること」の方向性が示された。

「AIxIoT (AIとIoTの融合)」をテーマとした
基調講演

カンファレンスは、産業用IoTに関する基調講演から幕を開けた。Linda Tsai氏（President of Industrial IoT）からは、AIxIoT (AIとIoTの融合)の趨勢について、「成長」「共創」「持続可能性」をキーワードに発表が行われ、アドバンテックが歩んできた40年の歴史と関連技術の紹介を通じ、近年の情報化・自動化に関連するキーワードの変遷が解説された。また、現在同社が提供している「自動化機器・ソリューション」「AIxIoTを加速するエッジコンピューティング」の概要と合わせ、「エッジ」をキーワードにした取り組みが発表された。

「スマートシティ」「製造業」「交通・流通」「健



康・医療」「小売り」などそれぞれの領域で活用されている同社製品や、パートナー企業の紹介もなされ、「生成AI」「インダストリー5.0（人を中心とした環境変化に対応できる持続可能な産業）」「カーボンニュートラル」といったAIxIoTの推進要因と、自社サービスのポートフォリオ、領域ごとに強みを持つパートナーが例示され、今後の方針も示された。さらに、アドバンテックが推進する「EdgeSync360」という概念に基づいた最適な機器・ソリューションの統合制御の全体像も発表され、エッジデバイスをそれぞれクラウドまでシームレスに接続する「EdgeLink」、効率的に管理する「DeviceOn」、リアルタイムに監視・制御する「WebAccess」、単一プラットフォームで管理する「EdgeHub2.0」などの全体像が、今後成長が見込まれる「FA」「機器間連携」といったIoT技術の適応用途と併せて共有された。また、サービスセンターや工場の新規開設計画も発表、2050年のNet Zero（温室効果ガス排出量が実質ない状態）を目指しての取組や、領域ごとのパートナー戦略なども示され、次世代のAIxIoTに関する共創の方向性が明らかにされた。

基調講演は、参加者が「業界全体のトレンド」および「アドバンテックがパートナーと共に歩む方向性」を理解し、「それぞれの参加者が持つ強み」と「アドバンテックが持つ強み」を、どのようにビジネスにつなげていくべきか具体的に考えられる時間となった。

アドバンテックが目指すAIxIoTの姿

■アドバンテックの次期戦略
アドバンテック創業者であるKC Liu氏は「AIxIoT + エッジコンピューティング」を核にした未来に向け

た戦略が40年の歴史と合わせて発表され、エッジコンピューティング市場のこれからの進化の方向性と適用領域も例示された。2023年現在は個々の事例創出が中心となっているが、今後時間が経過するにつれ領域ごとのソリューションが増え、5年から10年のうちにアーキテクチャとして統合され、汎用的に活用される未来を示した。

また、「The Trio of AIxIoT Co-Creation」というキーワードについても解説された。*Trioは、同社が提供するクラウドプラットフォーム「WISE-PaaS」およびエッジソリューション「EdgeSync360」と、生成AIやパートナーが提供するエッジAIなどの「AI Fusion」の3つを示している。それらを融合し、アドバンテックの強みを生かしながら、パートナー企業と一緒に共創を強く推し進めていくことが共有された。

■共創によるビジョンの実現

カンファレンスでは、共創を実現するパートナー企業も多数登壇し、具体例を交えた発表が行われた。マイクロソフトからはアジア太平洋地域のインダストリアルソリューションエンジニアリングPMグループマネージャーCathy Yeh氏が登壇。同社が提供するプラットフォーム「Azure」で生成AIで先頭を走るOpen AIの技術を組み合わせた「Azure Open AI」について「コンテンツ生成」「要約」「コード生成」「セマンティック検索（ユーザの意図などを理解して、関連性の高い情報を提供するための技術）」の4つの機能とそれぞれの事例を紹介。川崎重工とのロボットを活用したスマートファクトリーの事例や、ロックウェル

オートメーションとの会話型インターフェースの事例が紹介された。

NVIDIAからは、組み込みおよびエッジコンピューティング領域の副社長兼統括マネージャーDeepu Talla氏による「エッジAIとロボティクス」についての講演、モベンスからはCEOのRoi Pyong Pak氏による「AGV・AMRとロボット向けプラットフォーム」の紹介があった。また、ボストンコンサルティンググループ、Momenta Ventures、Orange Business、Raven ai、Integral System、Axiom Manufacturing Systemsなどのパートナーからも具体的な共創事例が共有され、アドバンテックが提供する製品・ソリューションとの連携による価値が広く示された。



スマートオートメーションソリューション

アドバンテックジャパンからも、執行役員インダストリアルIoT統括事業本部の古澤隆秋氏が、セクターマネージャーのTiger Yeh氏と共に登壇。設備総合効率（OEE）の管理、予知保全、エネルギーマネジメント、AI画像処理、MESなど、インダストリー4.0を実現するために注目されている各ソリューションについて事例を交えて解説をした。例えば装置メーカーにおける例では、同社製産業用PCと総合開発環境「CODESYS」を活用することで、30%の開発工数削減とダウンタイムを約15%削減できたことなどを紹介。同社のオープンエッジコントローラ「AMAX-5000シリーズ」が核となり、IT（情報技術）とOT（製造技術）両方の領域をシームレスにつなぐことで、「どのような機器がどのようにつながれたか」「入出力信号が基幹システムやクラウドまでどのようにつながれるのか」そしてその結果実現できる「セキュリティ対策」「予知保全の効果」などを分かりやすく紹介した。

<https://blog.advantech.co.jp>



工場をいろんな無線でつなぎます

WISE-4610 (LoRaWAN)
WISE-4671 (NB-IoT/LTE-M)

ECU-1051 (LTE/Wi-Fi)
ECU-150 (LTE/Wi-Fi)
ECU-1252 (LTE/Wi-Fi/CAN)
エッジゲートウェイ



WISE-4220 (Wi-Fi 2.4G)
WISE-4210 (SUB-G)
WISE-4471 (NB-IoT/LTE-M)

WISE-40XX (Wi-Fi 2.4G)

WISE-2210 (SUB-G)
WISE-2211 (SUB-G)
WISE-2200-M (LoRaWAN)
CT給電対応/アナログ入力

WISE-S100
タワーライトセンサ後付け

WISE-2410 (LoRaWAN)
WISE-2410X (LoRaWAN)
振動センサ電池駆動型

いろいろ選択可能な入出力を提供

アドバンテック株式会社
<https://www.advantech.com/ja-jp/>



【東京本社】 〒111-0032 東京都台東区浅草6-16-3

TEL : 03-6802-1021 FAX : 03-6802-1022

【大阪支店】 TEL : 06-6267-1887 FAX : 06-6267-1886

【名古屋支店】 TEL : 052-291-4860 FAX : 052-291-4861

FA業界掲示板

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/topics/>

■三菱電機、SCADA「GENESIS64」採用事例「リンステック下館工場」を公開

三菱電機は、FAサイト内に、SCADA「GENESIS64」の採用事例として、プリント配線板メーカーのリンステック下館工場(茨城県筑西市)の事例を公開した。同社はSCADA導入によって手作業に依存していた生産状況の把握がリアルタイムで可能になったことに加え、排水のpH値の推移を監視して異常発生前に回避措置を行えるようになり、さらに自由度が高い点を生かし、自社で運用できる体制を構築できたとしている。



■三菱電機、「機械加工ラインDXソリューション(MONOZUKURI DX Solution)」特設ページ公開

三菱電機は、FAサイト内に、「機械加工ラインDXソリューション(MONOZUKURI DX Solution)」特設ページを公開した。同ソリューションは、機械加工業を対象としたクラウドプラットフォームで、同社が提供するものづくり支援アプリやパートナー企業の知見や便利なアプリを利用して、開発設計から保守保全のエンジニアリングチェーンの全領域でさまざまなデータにアクセスでき、簡単に現場に導入することができる。

■三菱電機、特別コラム「愛すべき後輩たちへ」第2・3回公開

三菱電機は、FAデジタルマガジン「The Art of Manufacturing—ものづくり」で、特別コラムの第2回「あらゆる『モノ』の生みの親-FAの魅力-」、第3回「性別にかかわらず多様な意見を受け入れて」を公開した。ものづくりの世界で働く女性たちがその魅力と可能性について語り合った特別コラムで、2回目はFAの魅力や醍醐味を語り、3回目は女性のビジネスパーソンはどんなことを心掛けるべきか、男性にはどのような配慮と姿勢が求められるのかを公平な視点からアドバイスしている。



■オムロン、ロボット導入事例としてTDK稲倉工場 東サイトでのモバイルマニピュレータ事例を公開

オムロンは、ロボット導入事例として、秋田県にかほ市のTDK稲倉工場東サイトでのモバイルマニピュレータの事例を動画と合わせて公開した。同工場では、フェライトの材料とコアの開発/製造を行っており、成型機トレイから焼結用容器への移し替えを手で慎重に行っていたものを、



モバイルロボットと協働ロボットを組み合わせたモバイルマニピュレータを使って自動化し、さらに装置や作業の見え方や実績入力などの工数削減も実現した。

■富士電機、カーボンニュートラルに関わる技術紹介動画を公開

富士電機は、脱炭素社会の実現に貢献する「カーボンニュートラルテクノロジー」としてカーボンニュートラルに関わる技術紹介動画を公開した。



動画は「社長篇」と「技術篇」で構成し、「社長篇」では近藤社長COOが脱炭素社会における富士電機の使命を語り、「技術篇」では「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」の3つのテーマで、計測技術(流量計、漏洩検知センサ)、純水素燃料電池システム、直流配電に適した受配電機器、排熱回収型蒸気発生ヒートポンプなどのキーテクノロジーを紹介している。

■アズビル、クラウド型バルブ解析診断サービス「Dx Valve Cloud Service」を三菱ガス化学の3拠点に提供

アズビルは、三菱ガス化学の新潟工場(新潟県新潟市)と鹿島工場(茨城県神栖市)、浪速製造所(大阪府大阪市)の3つの生産拠頭に2024年春に向けて順次「Dx Valve Cloud Service」を提供していく。「Dx Valve Cloud Service」は、バルブの解析診断結果や運転中の稼働データをWebコンテンツで提供するクラウド型バルブ解析診断サービス。プラントや工場稼働するバルブの健全性を診断し、その結果を可視化して生産設備の安定化や保安力強化を支援する。導入が決まった要因は、Webコンテンツ上で調節弁の状態の解析診断レポートが毎週出力されていつでも閲覧可能なこと、調節弁の状態異常の早期発見・原因特定が容易であること、予期せぬ突発トラブルの未然回避につながることなど。



■フェニックス・コンタクト、電源用クラスII SPD「VAL-SECシリーズ」が国交省公共建築工事標準仕様書に適合

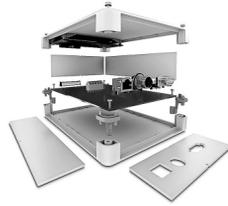
フェニックス・コンタクトは、電源用クラスII SPD「VAL-SECシリーズ」が国土交通省公共建築工事標準仕様書に適合していることを確認した。同製品は、対地間(N-PE間)にガス入り放電管

(GDT)を配置したSPDで、通常時の接地への漏れ電流をなくし、各相に置かれたバリスタが万一の短絡故障を起こしても、これに起因した地絡を防止することができ、日本国内で一般的なTT接地方式に適している。



■フェニックス・コンタクト、ユニバーサルケースシステムUCSシリーズの特設サイト公開

フェニックス・コンタクトは、ユニバーサルケースシステム「UCSシリーズ」を紹介する特設サイトを公開した。同製品は、10種類の製品サイズとカスタマイズ可能な基板取付位置によりあらゆる基板に対応する箱・筐体ケースで、専用アクセサリでDINレール取付や壁面取付など6種類の設置方法に対応している。



■アドバンテック、12月25~27日に福岡県直方・鞍手地域の中高校生へロボットプログラミング教室開催

アドバンテックは12月25日、26日、27日の3日間、九州大学在籍の中大学生プログラマー集団「GLEAP」と協力し、福岡県直方・鞍手地域に在住・通学の中高校生を対象に、ロボットプログラミング教室を開催する。



■ビルツ、技術広報誌「Mensch und Automation」最新号 未来のトピックスを紹介

ビルツジャパンは、技術広報誌「Mensch und Automation」の最新号の発行とWEB公開を行った。最新号では、ビルツの未来のトピックとして、人工知能と安全をどうすれば両立させられるのか? IO-Link Safetyや産業サイバーセキュリティといった問題を取り上げている。

■北陽電機、まんがで分かる制御機器 第16話「AGV同士がすれ違うと停止??」公開

北陽電機は、制御機器の知識についてまんがを織りこみ、「ホロボットの電機日誌」Vol.16を公開した。この漫画では、AGV同士がすれ違う際の制御機器の動作を分かりやすく解説している。



込みながら学んでいくコンテンツ「まんがで分かる制御機器」のSeason2 測域センサ エリア設定タイプ編 第16話「AGV同士がすれ違うと停止??」を公開した。最小検出物体の設定値を変更し、埃に反応することなくAGVを走行させることに成功したアンさんは、しばらく問題なくAGVを走行させることができたため、2台目を導入しましたが、AGV同士がすれ違うと停止してしまう問題が発生!?

■不二電機、組織変更を実施 中長期事業戦略とデジタル化推進へ経営企画室と情報システム部を設置

不二電機は、2024年2月1日付で組織変更を行い、中長期事業戦略の企画・推進に向けた「経営企画室」、デジタル化推進のための「情報システム部」を設置する。また業務効率化のため、草津製造部とみなみ草津製造部、新旭製造部、物流部を「製造部」に統合・編入、仕入販売の終息に伴ってスマートソリューション部を「営業部」に統合する。

■日東工業、産業用蓄電池システム搭載のEVリユースバッテリーに対し10年保証に対応

日東工業は、環境配慮型の産業用太陽光自家消費蓄電池システム「サファLink-ONE」で使用しているEV使用済みリユースバッテリーに対し10年保証に対応する。同製品は、EVで使用済みのリユースバッテリーを活用した産業用太陽光自家消費蓄電池システムで、安心利用に向けて長期保証を開始した。



■リタール、ブログ公開「制御盤の熱対策にはファン!種類と選定方法について詳しく解説」

リタールは、ブログ記事「制御盤の熱対策にはファン!種類と選定方法について詳しく解説」を公開した。インバータなどの動力機器を搭載する制御盤は、機器自体が発熱するため、制御盤外に放熱する必要があり、大型になるほど増加し、放熱量も増えていく。その熱対策の一つとして有効なのが制御盤用ファンで、記事では、制御盤の熱対策としての制御盤用ファンについて解説している。



■コンテック、クラウド型遠隔監視システムスタートアップキャンペーン。特別価格で提供

コンテックは、クラウド型遠隔監視システムの導入を検討しているユーザーに対し、特別価格で機器やライセンスを購入できるキャンペーンプランを実施している。コンテック通販サイトe-shopで専用端末と電源を購入の際にクーポンコードを入力すると30%OFFの特別価格が適用されるほか、FacilityView年間ライセンス(基本サービスと端末接続)を購入する際にもクーポンコードを入力すると年間ライセンスが50%OFFとなる。キャンペーン期間は2024年1月31日まで。

停電に強い電源づくり。

災害時での
電源停止を未然に防ぐ。
100年企業のノウハウを
この製品に盛り込んでいます。
2つの電源を安全に切り替える機能が
1台にすべてパッケージされています。



切替器専門メーカー
高田製作所
Since1919

太陽光や発電機を停電時でも安心して活用できます
電源自動切替器 ACMS-A
電源容量が選べます。100A 150A 200A 300A 400A

2系統の電源を停電時に **自動** で切り替える製品です。
内蔵切替器は大手蓄電池メーカーの
非常用切替に長年採用されています。



すべての仕様書が
<仕様・外形図・回路図>
ホームページから
ダウンロードできます。

詳しくは <https://www.takadass.co.jp/>



tu na ga ru

ユ-エイ ツナガルシステム

Powered by
EnOcean
Self-powered IoT



IoT×キャスターが
世界を変える

ツナガルシステム 特設サイトをチェック!



IoTシステムを体感できるショールーム
YUEI Technology Center (YTC東京)
詳細はこちら!

キャスターの総合メーカー www.yuei-group.com

株式会社 **ユ-エイ**

PHENIX CONTACT
100 years of passion for technology and innovation
35th ANNIVERSARY
フェニックス・コンタクトは2023年ドイツ本社創設100周年 日本法人設立35周年

不可能を、可能に — それが、SICKのセンサインテリジェンス。
SICK
Sensor Intelligence.
本社：東京都中野区本町 1-32-2 ハーモニータワー 13F TEL. 03-5309-2115
URL <https://www.sick.com/jp> e-mail support@sick.jp

Electronics Solutions Company
KANADEN
株式会社 カナデン

電気設計から製造までデータがつながる
EPLAN
Efficient Engineering is when a PLAN becomes EPLAN.

オートメーション新聞がPDFで読めるって知ってました？
配信先の追加希望はお気軽に
オートメーション新聞 PDF電子版

工場新設・増設、設備投資情報

オートメーション新聞WEB URL付き記事はこちらから→<https://www.automation-news.jp/category/factory/>

国内

■ギガフォトン、栃木県小山市で生産棟の新社屋が竣工 生産能力を2.5倍に拡大

半導体リソグラフィ用光源メーカーのギガフォトンは、生産能力増強を目指して2022年7月より着手していた栃木県小山市の生産棟の新社屋が竣工した。

今回竣工した生産棟の新社屋は50億円を投資し、同社として初の生産専門の建屋。新生産棟では一人当たりの生産効率だけでなく、福利厚生面も充実させ、生産部門人員を2020年の2.4倍に増強する計画。新社屋の稼働によって目標としていた2020年比2.5倍の生産キャパシティを実現する。

新社屋は鉄骨造の地上3階建、塔屋1階。延床面積は7537平方メートル。



■平田機工、滋賀県野洲市の関西工場のリニューアル工事が完了 本格稼働開始

平田機工は、2021年より段階的に行ってきた滋賀県野洲市の関西工場のリニューアル工事が完了し、運用を開始した。

新工場は、①社員の意見を取り入れて職場環境改善・向上を目指す、②持続可能な環境保全の取り組みを強化する、③同社の認知度向上や企業イメージ向上につながる事業所を目指すをコンセプトに建設。

2800平方メートルの組み立て建屋を新設し、既存建屋内の機械設備のレイアウトを見直すことで、調達から機械加工、塗装、組み立てまでの工程で生産の流れを整理して一貫生産体制を構築して生産性を向上。また管理関係部門でもブーム型のデスクを採用して開発・設計担当者が自由な発想のもと集中して業務に取り組めるレイアウトとした。



またフリーアドレスやミーティングボックスの設置、バリアフリー化、食堂の拡充や無料で利用できるトレーニング施設などリラックス・リフレッシュできる空間を整備し、多様な働き方に対応している。新工場の敷地面積は3万48平方

Fukunishi
人・技術・情報の架け橋となり、最適解で「福」あふれる未来をつくる。
福西電機株式会社

米。3つの建屋とエンジニアリングセンターで構成され、延べ床面積は1万3194平方メートル。

■ペパーレット、静岡県島田市にペットケア用品の新工場

ユニ・チャームのペットケア用品の生産子会社であるペパーレットは、静岡県島田市に新工場を建設した。

同社は、猫用トイレの「紙砂」を世界で初めて開発した企業で、1975年に創業し、2012年よりユニ・チャームグループの一社として事業を展開している。ユニ・チャームグループ各社の製造工程から排出される紙おむつや生理用品などの資材ロスなどを原材料の一部として活用して紙砂を製造し、循環型社会の実現に貢献している。これまで一部において分散していた生産拠点を新工場に集約することにより、生産能力および物流効率の改善などを狙う。



■三菱電機、鎌倉製作所と郡山工場、電子通信システム製作所に新生産棟8棟を建設

三菱電機は、防衛装備品の開発・生産を行う鎌倉製作所(神奈川県鎌倉市)と同製作所郡山工場(福島県郡山市)、電子通信システム製作所(兵庫県尼崎市)に計約220億円を投資し、新生産棟(計8棟)を建設する。2025年4月から順次竣工し、防衛装備品の開発・生産体制を整備していく。

新生産棟では、生産工程の自動化拡大、AMR活用による物流効率化などにより、高品質・高効率な生産を実現する。3DデータやBOM情報を中心としたECM基盤を構築し、IoTを活用したものづくりDXを推進し、拠点間の連携強化を図る。また、CO₂排出量削減の取り組みにより、カーボンニュートラル社会の実現に貢献する次世代工場を目指す。

鎌倉製作所の建築面積は、合計約6040平方メートル、延べ床面積は約3万400平方メートル。鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、地上6階建2棟の地上5階建1棟合計3棟。2026年3月から順次竣工。

郡山工場の建築面積は、合計約9300平方メートル、延べ床面積は約2万1900平方メートル。鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造、地上3階建2棟の地上2階建2棟合計4棟。2025年4月から順次竣工。

電子通信システム製作所の建築面積は、約3600平方メートル、延べ床面積は約2万5200平方メートル。鉄骨造地上7階建1棟。2026年12月竣工。

■日本デルモンテ、2025年6月で長野工場の生産を終了して群馬工場に集約 群馬工場に設備投資

キッコーマンの子会社の日本デルモンテは、現在、群馬工場(群馬県沼田市)と長野工場(長野県千曲市)の2つの拠点で調味料や飲料などの生産を行っているが、生産性向上に向けて生産体制を見直し、長野工場

での生産を終了し、群馬工場に集約することとした。

群馬工場はトマト調味料を、長野工場は飲料を主な生産品目として生産を行っており、新たに群馬工場に設備投資を行って生産品目を集約することで、効率的な生産体制を構築する。長野工場での生産終了は2025年6月を予定している。

群馬工場の敷地面積は3万2500平方メートル。

■東邦チタニウム、神奈川県茅ヶ崎市の茅ヶ崎工場と福岡県北九州市の若松工場でスポンジチタンの生産能力増強

東邦チタニウムは、神奈川県茅ヶ崎市の茅ヶ崎工場と福岡県北九州市の若松工場でスポンジチタンの生産能力を増強する。1年当たり3000トンの増産となる。2023年11月着工。2026年1月稼働開始。

■永谷園ホールディングス、茨城県高萩市に新工場建設

永谷園ホールディングスは生産体制の強化に向け、茨城県高萩市大字赤浜の赤浜地区工業団地にお茶漬けやふりかけ、粉末みそ汁などの生産の基幹工場となる新工場を建設する。敷地面積は約4万5000平方メートル。2024年7月着工予定。2025年7月竣工予定。投資額は約70億円。

■食研、愛知県豊橋市の豊橋工場を移転・新設 製造能力は2倍に

冷凍食品メーカーの食研は、愛知県豊橋市三弥地区に工場を新設し、現在の豊橋工場を移転する。これにより同社の生産能力は1万トになる計画。

新工場の敷地面積は現工場の約5.8倍に広がり、カツ類、カツサンド、食品機能製剤の製造を担い、冷凍食品の製造能力は年間5000トで、これまでの約2倍となる予定。製造ラインは「加熱済み品の専用ライン」と、「加熱済み品と未加熱品の切り替え可能なハイブリッドライン」の2ライン体制を整える。

また、新工場に導入する急速冷凍設備の冷媒には「自然冷媒」を採用。自然冷媒には二酸化炭素やアンモニアが使われるため、温暖化への影響をフロン1の1万分の1に抑えることができる。LED照明も導入することで電気消費量を削減、CO₂排出量軽減に貢献する。

敷地面積は2万244平方メートル、延床面積は7292平方メートル。2023年12月に竣工し、2023年12月中旬操業開始。設備投資額は55億円。

■資生堂、2026年上期中に大阪府内の大阪工場を大阪茨木工場に統合

資生堂は、大阪府大阪市東淀川区の大阪工場の生産活動を、2026年上期中を目途に大阪府茨木市彩都もえぎの大阪茨木工場に統合する。

同社は大阪府内に、1948年より操業した大阪工場と、2020年より操業を開始した大阪茨木工場を有し、匠の技術を有する社員を誇る大阪工場の高い生産技術と、最新鋭の設備を備える大阪茨木工場を統合することで、技術を継承しながら、持続的に働きやすい環境で、生産性高く高品質な製品を供給していくことを目指す。統合完了後、大阪工場は生産活動を終了する。

■SBIホールディングス、台湾・PSMCと宮城県黒川郡大衡村に半導体ファウンドリを建設

SBIホールディングスと台湾の半導体ファウンドリ大手Powerchip Semiconductor Manufacturing Corporation (PSMC) は、宮城県黒川郡大衡村の第二仙台北部中核工業団地を半導体ファウンドリの建設予定地として決定した。

同社とPSMCは今年8月に日本国内での半導体ファウンドリ設立に向けた準備会社としてJSMCを設立し、工場建設地の検討を進めてきた。工場建設計画の発表以降、30を超える自治体から誘致の申し出があったが、給排水、高圧電力、ロジスティックなどのインフラの充実度、災害への強度、周辺の住環境、今後の産官学連携の可能性などを踏まえ、第二仙台北部中核工業団地を建設予定地とした。

建設予定の工場では最終的に、28nm、40nm、55nmの半導体について月間4万枚のウェハを生産できる計画となっている。

■トヨーカネツ、和歌山県橋本市に新工場建設

トヨーカネツは、和歌山県橋本市に新工場を建設する。

これまで同社は現在の和歌山工場(有田市)を中心に生産を行ってきたが、省人化ニーズの高まりを背景とした多様化・高度化を伴う物流システム需要の増加に応え、事業規模を拡大するためには生産体制の増強が不可欠となり、新工場を建設する。

新工場予定地の和歌山県橋本市あやの台北部用地は、現在の和歌山工場との相互支援や補充ができ、効率的に生産機能を拡大していくことができ、工業団地用地なことから操業時間などの制約も少なく、生産量増加にも対応可能。新工場は、製品の増産に加え、国内外からの物流システム調達品の品質管理拠点としての役割を果たす、

さらに設備設置工期を短縮するために製品のユニット化を進め、物流ソリューション事業のパリトゥーション全体の効率化への貢献を進める。敷地面積は約4万9916平方メートル。投資額は土地で14億5000万円。2028年操業開始。

Just in your products
Just Products
挑戦する盤メーカーをサポートする会社
コスト、生産性、脱炭素。それだけにどまらない、鋼バー加工の外注化のメリットをお伝えします。
株式会社ジャストプロダクツ

UNIX JAPAN UNIX

世界の製造業が採用
IPC 品質標準規格

はんだ付工程を
見える化する



グローバルに通用する製品品質を備え、世界各地での躍の第一歩に——



ジャパンユニックスではIPCの標準規格書・情報・サービスを提供しています

卓上型はんだ付ロボット UNIX-DF シリーズ

- 『Soldering Manager』でははんだ付のIoT化へ
ジャパンユニックス独自のはんだ付ロボット管理ソフトウェア・『Soldering Manager』を使用して
モニタリング・稼働ログの保存が可能
- 3D ソルダリングの実現
付加軸2軸を加えた6軸同時制御により
ロボット操作のみで複雑形状の製品へのはんだ付が容易に



IPC 標準規格書 無料版 まずはwebからダウンロード 『IPC』『規格』『無料』で検索

ジャパンユニックス製品 導入事例集 webにて公開 『はんだ付 導入事例』で検索